

【本日の説教アウトライン】 私は何のために生きているのか
人生における最も大切な三つの質問

1. 存在についての質問：私は何のために生きているのか

「なぜ私は生まれたのか。労苦と苦悩に会い、一生を恥のうちに終わるためだけだったのか。」エレミヤ20:18 TEV

「主は全てのものをご自分の目的のために造られた。」箴言16:4a GW

「世界の基を置かれるはるか以前から、神は私たちのことを考えておられ、ご自身の愛の対象として定められ、その愛により完全で聖いものにしようとされました。」エペソ1:4MSG

神：私は、神に愛されるために創造された。

2. 重要性についての質問：私の人生には価値があるのか

「私の仕事は全て無意味に思える。私は自分の力を全く空しく、意味のないことのために使い果たしてしまった。」イザヤ49:4a NLT

「わたしはあなたの創造主。あなたが生まれる前からあなたはわたしの世話のもとにあった。」イザヤ44:2 CEV

「あなたは私が息をし始める以前に、私の人生の日々を予定されました。あなたの本に全ての日々が書き記されました。」詩篇139:16 LB

「主のご計画は永遠にながらえ、主のご目的は永遠まで保たれる。」詩篇33:11GN

神：私は永遠に生きる存在として造られた。

「私たちが今住んでいるこのテント-私たちのこの地上の体-が壊れても、神は私たちの住む家、一神ご自身が造られた永遠に続く天国の家-をあらかじめ用意しておられるのです。」IIコリント5:1TEV

「わきまのないことを捨てて生きなさい。意味のある人生への道を歩いていきなさい。」箴言9:6MSG

3. 目的についての質問：私の目的は何か

「何で私たちを創造なさったのですか。無意味だったのですか？」詩篇89:47NCV

「神を知ることは他のすべてのことについての悟りに至る。」箴言9:10bLB

神：神を知ることによって自分の目的を見いだすことができる。

「上にあるもの、下にあるもの、見えるもの、見えないもの、おおよそ全てのものが御子によって造られ、御子のために造られたのです。」コロサイ1:16 MSG

「キリストにあって私たちが誰であり、何のために生きているのか発見できます。全ての出来事、全ての人は彼が計画されている目的の一部なのです」エペソ1:11MSG

「あなたが誰でありどこから来たのかは関係ない。あなたが神を求め、神に従う準備ができていたら扉は開かれているのだ。」使徒10:35MSG ■

【今週の暗唱聖句】 40日の旅／第一週 目的 エペソ2:10

私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むようにその良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。エペソ2:10

私たちはどうでもいいような物でなく、大量生産物でもなく、「神の作品」、行って良い実を結ぶという「目的を持った作品」である。私たちの喜びが最大になるようにと、神は人間一人一人に「天命／使命」を準備して下さった。それを拒絶しないようでありたい。■

【祈りに関する学び（1）】

祝福がすべての基もといである

- 神はまた、それらを**祝福**して仰せられた。「生めよ。ふえよ。海の水に満ちよ。また鳥は、地にふえよ。」創世記1:22
- 神はまた、彼らを**祝福**し、このように神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。」創世記1:28
- 神はその第七日目を**祝福**し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。創世記2:3
- 男と女とに彼らを創造された。彼らが創造された日に神は彼らを**祝福**して、その名をアダムと呼ばれた。創世記5:2

上記は聖書の中で「祝福」という言葉が使われている最初の四節である。神は創造の段階で海の魚・空の鳥、つまり「生き物」まで来られたときに初めて「祝福」を語られた（植物は含まれていないが勿論神の祝福のうちにあると考えるべきである）。祝福とは「幸福を祈ること」と定義されるが、その定義で言えば聖書の中で一番最初に「祈っている」のは神ということになる。ところで、この神の祝福の祈りこそ「この世」を理解する上で最も大切な土台となるのではないだろうか。この世は弱肉強食、競争原理が支配する殺伐とした苦しみの場所、汗と労苦と悲しみと苦しみの場所なのではなく、もともと神の善意で満ちている所ということなのである。7日目の祝福は私たちが仕事を休み、神をほめたたえる中で私たちに帰ってくる。

★クリスチャンの執り成しの奉仕もいつもこの「神の祝福」を土台にし、神を崇め、感謝することから始めたい。そして自分を含めた罪人たちの「祝福への回帰」こそが祈りの目的であることを覚えよう。■

